



▲平成30年度の完成が見込まれる甲佐地区災害公営住宅のモデル図（豊内地区）

災害公営住宅を復興のシンボルに

甲佐町住まいの復興拠点施設整備設計に係る公募型プロポーザル2次（公開）審査を実施



▲2次（公開）審査の様子

●震災からの復興拠点として町の発展を目指す

7月3日（月）町生涯学習センター・ホールで、「甲佐町住まいの復興拠点施設整備設計に係る公募型プロポーザル2次（公開）審査」が実施されました。

将来を見据えさらなる発展を目指す指針として策定された「町震災復興計画」に基づき、震災からの創造的復興や本町の活性化のシンボルとして、災害公営住宅のほか、子育て支援住宅および防災公園の一体的な整備を甲佐地区（豊内地区）に実施します。

この事業は、後世に残る文

化的資産の創造と地域活性化を目指して県が推進する「くまもとアートポリス」の参加事業として行われました。

全国24社の応募のうち、最優秀賞に選ばれた「岡野道子建築設計事務所＋ビルディングランドスケープ」の提案では、風の通り道や自然採光にこだわった「風を足し光を操る」という本町の環境を「デザインすること」をテーマに考えられています。

遊歩道の左右に平屋の災害公営住宅が並び、中央の防災公園を挟んで3階建ての子育て支援住宅が配置されています。災害公営住宅には土間が設けられ、気軽にくつろげる空間がデザインされており、コミュニティのつながりも考慮されています。

なお、この復興拠点施設整備は今年度から着手し、そのうち災害公営住宅については、平成30年8月完成を予定しています。

▼お問い合わせ先
町企画課

096・234・1154